

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ)					担当教員	村越 真紀 (ムラコシ マキ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	課題解決型AL/協同学習型AL
	2025-0-31-060	ゼミナール 科目	必修	2単位	3年次	通年		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	課題解決型AL/協同学習型AL
	2425-0-31-005	ゼミナール 科目	必修	2単位	3年次	通年		

① 授業のねらい・概要					
人口減少が続く地方都市にとって、域外からの来訪者を増やすとともに域内での消費につなげることが、地域の経済を活性化させる上で必要な方策であると考えられる。しかし、京都のように豊富な観光資源を持たない場合、どうやって来訪者を増やし、域内での消費につなげればよいのか。何が地域の魅力で、それをどのように発信すればよいのか。本ゼミナールでは、これらについて主体的に考え、他者と協働してプランを実行し、結果を検証する。その過程で、情報収集力、情報分析力、情報発信力、文書作成力、コミュニケーション力などの向上を目指す。					
② ディプロマ・ポリシーとの関連					
地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力					
③ 授業の進め方・指示事項					
統計資料等を分析し、地域の現状を把握するとともに課題を設定する。課題を克服するためのプランを各自が考え、実行し、検証する。					
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能					
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。					
必要に応じて資料を配布する。					
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。					
e-Stat, RESAS, いがた県統計ボックスなどのサイトのほか、書籍については授業内で適宜紹介する。					
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)					
これまでに学んだことを活かして、主体的に行動してください。他者との協働ができるように努力してください。					
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安					
(1) 現状を分析し、課題を設定できる。 (2) 課題に対する解決策を考え、実行できる。 (3) 結果を検証し、他者にわかりやすく伝えることができる。					
⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1) 現状を分析し、課題を設定できる。	Aに加えて、他地域との比較や、他地域の事例などを踏まえて、複数の課題を設定できた。	複数の統計資料を見つけ、地域の現状を分析し、複数の課題を設定できた。	複数の統計資料を見つけ、地域の現状を分析し、課題を設定できた。	教員の支援を得て統計資料を見つけ、地域の現状を分析し、課題を設定できた。	教員の支援を得ても、地域の現状分析、課題が設定できなかった。
(2) 課題に対する解決策を考え、実行できる。	Aに加え、成果をあげることができた。	自らの力で課題に対する解決策を考え、他者と協働して実行できた。	教員の支援を得て課題に対する解決策を考え、自ら実行できた。	教員の支援を得て課題に対する解決策は考えられたが、実行はできなかった。	教員の支援を得ても、課題に対する解決策を考えられず、実行もできなかった。
(3) 結果を検証し、他者にわかりやすく伝えることができる。	Aに加え、次年度に向けた具体的なアクションプランまでも記述されており、さらなる成長が期待できる内容になっていた。	結果を検証し、得た学び、気づき、今後の課題を他者が理解できるように文章化し、それをもとに発表資料を作成して口頭発表でき、質疑にも適切に回答できた。	結果を検証し、文章化できた。それをもとに発表資料を作成して口頭発表できた。質疑にも何とか応答できた。	教員の支援を得て取り組みの結果を検証し、文章化できた。それをもとに発表資料を作成して口頭発表できた。	教員の支援を得ても取り組みの結果を検証できず、文章化もできなかった。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	40%			30%	15%	15%	100%	
(1) 現状を分析し、課題を設定できる。	10%			10%	10%		30%	
(2) 課題に対する解決策を考え、実行できる。	10%				5%	15%	30%	
(3) 結果を検証し、他者にわかりやすく伝えることができる。	20%			20%			40%	
評価項目「その他」詳細	授業時間以外に実施した活動や取り組み。							
フィードバックの方法	各自の発表に対しては、ピア評価を行う。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス、ゼミの進め方についての説明	今年度のゼミの進め方について考えてくる。授業で意見が言えるように準備してくる。						60分
2	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
3	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
4	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
5	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
6	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
7	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
8	データ分析、文献講読	データを集め、現状を分析する。文献を熟読する。						60分
9	これまでの研究成果のまとめ	分析結果と文献から得た知識をもとに、課題を考える。						60分
10	ディスカッション1（課題設定）	分析結果と文献から得た知識をもとに、課題に対する解決策を考える。						60分
11	ディスカッション2（解決策の検討）	解決策の具体的な実行プラン、スケジュールを考える。						60分
12	解決策実行プラン、スケジュール作成	解決策の具体的な実行プラン、スケジュールを考える。						60分
13	解決策実行プラン、スケジュール作成	解決策の具体的な実行プラン、スケジュールを考える。						60分
14	解決策実行プラン、スケジュール作成	解決策の具体的な実行プラン、スケジュールを考える。						60分
15	前期のまとめ、振り返り	前期の総括を発表できるように準備する。						60分
16	夏休み中の活動報告、後期スケジュール確認	夏休み中に行った活動について報告できるように準備する。						60分
17	解決策実行	解決策実行のための準備をする。実施記録を付ける。						60分
18	解決策実行	解決策実行のための準備をする。実施記録を付ける。						60分
19	解決策実行	解決策実行のための準備をする。実施記録を付ける。						60分
20	結果の検証	実施記録をもとに結果を検証する。						60分
21	結果の検証	実施記録をもとに結果を検証する。						60分
22	成果発表会に向けた資料作成等の準備	プレゼン資料の作成。						60分
23	成果発表会に向けた資料作成等の準備	プレゼン資料の作成。						60分
24	成果発表会に向けた資料作成等の準備	プレゼン資料の作成。						60分
25	成果発表会ゼミ内リハーサル	プレゼン練習。						60分

26	報告書作成 1	報告書の作成。	60 分
27	報告書作成 2	報告書の作成。	60 分
28	報告書中間発表	報告書の進捗報告ができるように準備する。	60 分
29	報告書修正	報告書の修正。	60 分
30	報告書最終発表	報告書を完成させる。最終発表用資料を作成し、発表の準備をする。	60 分
⑫ アクティブラーニングについて			
協同学修型 AL、課題解決型 AL			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性